

碑めぐりの後に行われた「被爆体験談」の中で、講師である佐伯さんに質問を行う場面がありました。

「戦争を知らない私たち世代は、被爆国の国民として何をしたら良いか」という生徒からの問いに対して、「もしも今、戦争が起きて、爆弾が落ちてしまったらと想像してみること、想像して考えて伝えていくことが大切」と話してくださいました。

この被爆体験談の様子は、あびらチャンネルでも放送予定です。



派遣団の想い、伝えたいこと

佐伯さんのお話を聞いて、身近に感じるができなかった戦争や原爆投下のこと、そして当時の大変さについて詳しく知ることができました。

また、それと同時に鳥肌や悪寒を感じるほどの衝撃を受けました。

佐伯さんは「戦争や原爆投下のこと、その時の大変さ」を知ってほしいと言っていたので、色々な人たちに知ってほしい。私自身も伝えていきたいと思います。

追分高等学校 1年生 阪井 七海

一番に伝えたいことは「命を大切にすること」。

生き残ることができた方々が「早くみんなのところへ行きたい」「なんで自分たちだけ」など言ってしまう状況から、その後のある出来事をきっかけに気持ちが変わったという話を佐伯さんから聞きました。

私たちも些細なことで気持ちが沈んだり、時には命を投げ出したくなることもあるかもしれませんが、そんな時こそ、「命の大切さ」について、一度立ち止まって考えてほしいです。

追分中学校 3年生 鈴木 ほのか

いつもの風景、ずっと続くと思っているものは簡単に壊すことができる。それが原爆です。

今過ごしている日々が当たり前だと思うかもしれません。

ですが、たった一つの出来事で、その日常は壊れてしまう可能性があります。毎日過ごしている日々を大切にしていきたいと思います。

早来学園 9年生 佐藤 帆華

広島で亡くなった方は14万人、ただしそれは身分証明ができた人だけで、実際に亡くなった方はもっと多くいるそうです。私が広島の大原爆について知っていたことは「きのこ雲」の写真だけで、こんなにもたくさんの人が広島で生きて、そして亡くなったと考えると、その平和を奪った戦争は、本当に悲しくて苦しいものだと思いました。

広島にはたくさんの外国人がいました。日本人の私は初めてその地を訪れました。

もっともっと多くの日本人が「戦争と平和」について考えていくことが大事だと思います。

また来年も折り鶴を持って安平の子どもたちが平和を祈ってきてほしいと願います。

追分小学校 6年生 本多 祐実香

私たちに今一番知っていて欲しいことは「命の大切さ」と佐伯さんは教えてくれました。

それを後から考えてみると、とても大事な意味であり、たくさんの人に知って分かってもらう必要があると思いました。

早来学園 6年生 高島 穂実